科目区分	基礎科目	科目名	生活とアート	科目コード	17Y110	担当者	昆　正子
対象学生	幼児教育学科1年生	学期区分	前期	単位数	2	卒業要件	選択必修
						免許・資格要件	

科目の主題	学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
美術における表現の喜びや感動を学ぶ	1．「尽心」誠実な人柄と人間力		2．「創造」高度な知性と創造力		3．「実践」明確な意思と実践力	
科目の到達目標	①誠実性・真摯性	②多様性・協働性	③知識・技能	④思考・表現・判断・創造力	⑤主体性・実行力・自立性	⑥就業力・貢献力
1．人間にとっての美術の意義を説明できる						
2．美術に関する基礎的な知識を身につけ、美術作品を読み解く能力を養う						
3．自由な発想と多様な表現方法により、表現活動を行うことができる						
4．	○	○	○	○	○	
5．						

授業方法	成績評価の方法と割合
表現と鑑賞の相互関係を基にし、時に実技を絡めながらの講義形式で行う。 スライド・映像視聴のほか、授業内でプリントを配布する。 美術の基礎的知識について中間テストを行う。 実技については個人制作のほか、グループに分かれての活動も行う。	臨時試験（35%） 提出物（45%） 受講態度（20%）

準備学修	課題等への対応
美術に関心を持ち、楽しみながら学ぶ習慣を日頃から身につけておくこと。 授業の中で適宜、具体的な内容について指示する。 西洋・日本美術の基礎知識を身につけるため、予習・復習には年間15時間を確保してほしい。 また、制作に必要な時間には個人差があり、作品完成のために時間外での制作を必要とする場合がある。	を返却し、全員で回答確認を行う。 レポートは内容確認後、後日授業内で学生に返却する。 作品制作後は極力鑑賞の時間を設け、後日授業内で学生に返却する。

授業計画	
第1回	オリエンテーション（授業の説明）
第2回	美術の鑑賞①ルネサンス期の芸術
第3回	美術の鑑賞②ロマン主義の画家たち
第4回	美術の鑑賞③写実主義の画家たち
第5回	美術の鑑賞④印象派の画家たち
第6回	作家・作品研究
第7回	美術の基礎知識を確認する（これまでの振り返り）
第8回	美術教育とは
第9回	作品にみる色と形の表現ー色・線・形
第10回	作品の中の素材と技法ーしかけ・視覚効果
第11回	見る楽しさーポップアップカード１
第12回	見る楽しさーポップアップカード２
第13回	コラージュによる不思議な世界１
第14回	コラージュによる不思議な世界２
第15回	暮らしの中のアート―意義と役割

教科書・参考書	受講生へのメッセージ
教科書は使用しない 参考書については適宜授業内で紹介する	問題意識をもって受講してほしい。 材料用具は個人負担であり、準備物は不可欠である。 県内の美術館や博物 館で見学会を実施する場合は、授業を土曜日または日曜日に振り替えて実施する(現 地集合・現地解散、要展覧会観覧料)